

ぽらりす

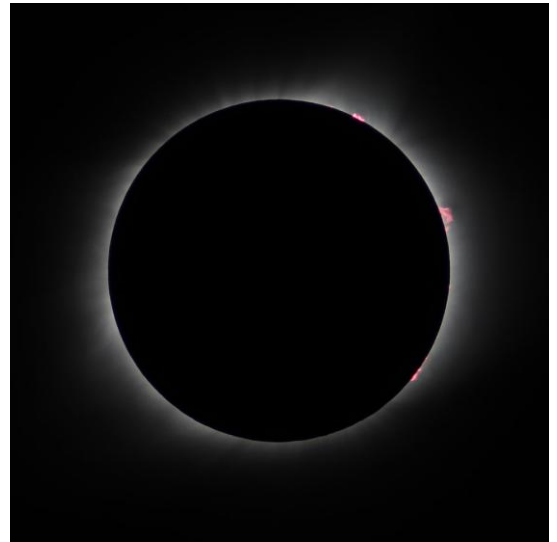


《2025 年 10 月3日発行/毎月初めに天文台職員が情報発信します》

【プロミネンスを見よう】

皆既日食の時、太陽光が完全に月に隠されている数分間だけ、縁から飛び出した「赤い炎」が見られます(写真 1)。これを日本語では「紅炎(こうえん)」と呼びますが、英語のままの「プロミネンス」の方がよく知られているようです。その正体は約 1 万℃の水素で、強い磁力が働いて炎やループの形に変化したり、浮かんだままに見えることもあります。

天文台には、その赤い光のみを通す特殊なフィルターが付いた太陽望遠鏡があり、プロミネンスが出現していればいつでも見ることができます。最近では太陽活動が活発な時期なので、プロミネンスはほぼ毎日見られるだけでなく、



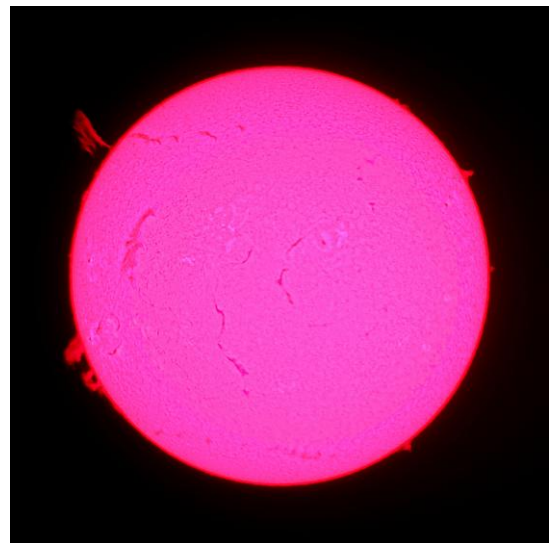
【写真1】2017 年 8 月の皆既日食(アメリカ)

- ①1つだけでなく複数見られる。
- ②ずば抜けて大きなものが見られることがある。(写真 2)
- ③短時間で形が変わるものが見られることがある。(写真 3)

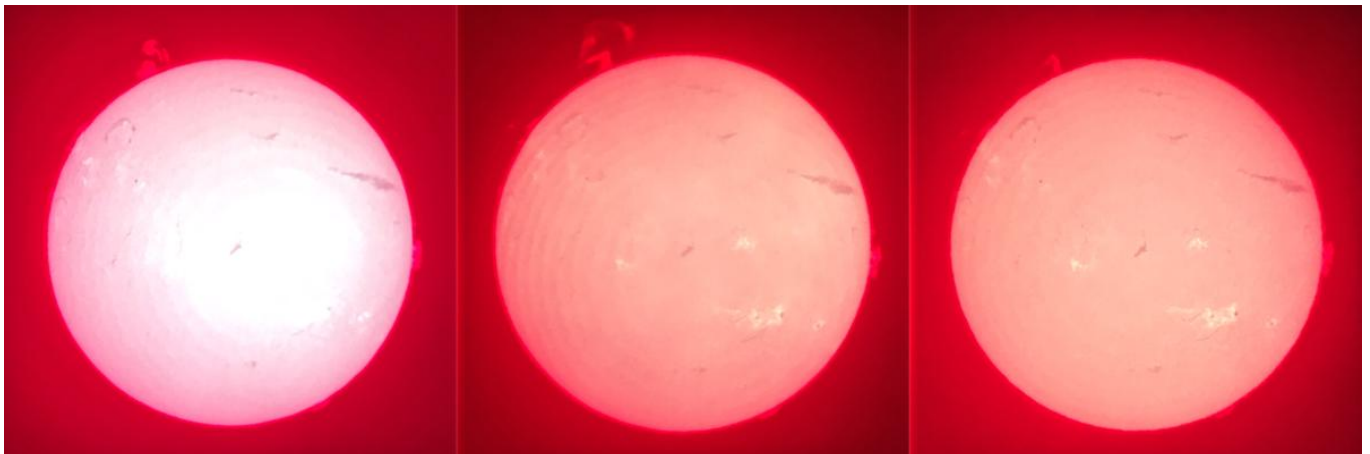
と、より珍しい現象に出会うチャンスも増しています。

ただ、秋分を過ぎて太陽高度が低い季節になったため、午後は公園の木に隠れてしまうようになりました。来年の春分頃までは太陽観望は午前中の公開時に限られますので、ご注意ください。

また、この「ぽらりす」を天文台で受け取っている方は、たった今望遠鏡で太陽を見た後かもしれませんが、機会があれば何度も見比べてください。(布施 隆久)



【写真2】2025 年 6 月 29 日



【写真3】2025 年 6 月 12 日左から 14 時 12 分、14 時 48 分、15 時 07 分

☆流れ星を見よう☆

天文台で働いていると、「〇〇座流星群見られなかった。」「ニュースで見た流星群、見たかった。」というお話を聞かことがあります。夜空に突如現れる一瞬の輝き…見逃してしまうと余計に見たくなりますよね。

『〇〇座流星群』と呼ばれる流星群には規則性があり、毎年決まった時期に決まった点（放射点）から四方八方に流れます。なぜこんな現象が起きるのでしょうか。まず流れ星とは、宇宙にある数 mm から数 cm 程度のチリが地球の大気圏に突入することで光って見える現象です。そのチリの多くは太陽の周りを公転する彗星が落としていったものです。彗星の主成分は氷で、他に二酸化炭素などのガス、チリでできており「汚れた雪だるま」に例えられます。太陽に近付くと、本体の氷が蒸発し、ガスとチリも一緒に表面から放出され彗星の軌道に撒き散らされます。地球は太陽を1年かけて公転しますが、いつも決まった時期に同じ彗星の軌道に接近するため、その彗星が軌道に残した置き土産のチリが地球の大気と衝突することにより流星群が見られるのです。流星には放射点や流れる時期に規則性が無く、無秩序に流れる「散在流星」もありますが、効率よく流星を見たいのなら流星群がお勧めです。



10月に比較的多くの流星が見られそうなのはオリオン座流星群です。（出現期間10/2～11/7、10/21 極大）今年のオリオン座流星群の極大日である21日は新月なので、月明かりの全くない最高の条件です。極大日の流星数は1時間当たり10個程度、一部には20個程度という予想もあります。21日の前後数日間は、放射点のあるオリオン座が東の空に昇る23時頃から明け方まで観望できそうです。ちなみにこの流星群の母彗星（流星群のもとになるチリを軌道に残した彗星）は約75年ごとに地球に接近する有名なハレー彗星です。

流星をみるポイント

- ・放射点はオリオン座にありますが、流星は空全体に現れるため広い視野で空を見渡しましょう。
- ・街灯など人工の明かりが少ない暗い場所を選びましょう。
- ・寒い時期です。長時間外にいと気温以上に寒く感じます。暖かい服装で出かけましょう。
- ・長時間見上げるので首が痛くなります。背もたれのある椅子に座ったり、レジャーシートに寝転ぶと疲れにくいです。

夏にみずがめ座δ(デルタ)流星群を極大の3日前に見た時は1時間半くらい見上げて10個程流星を見ることができました。今回は寒そうです。何時間粘れるでしょうか。（岩槻希美）

☆10月の夜間公開(予約は不要です。公開時間内にお越しください。)

4日(土)、5日(日)	19:00～21:00	月・土星・夏～秋の星座
6日(月)	19:00～21:00	中秋の名月・土星
17日(金)～19日(日)	19:00～21:00	土星・夏～秋の星座
休台日は14日(火)、20日(月)、27日(月)です。		